



むさしのヒューマン・ネットワークセンターだより



Vol.51

2015年 8月

そよ風

Contents

- トピックス(“子どもの貧困”を直視する)・・・①
- 男女共同参画フォーラム報告 ……………②～⑤
- 講座報告 ……………⑥～⑦
- 予定講座、各種利用案内等 ……………⑧

topics

“子どもの貧困”を直視する

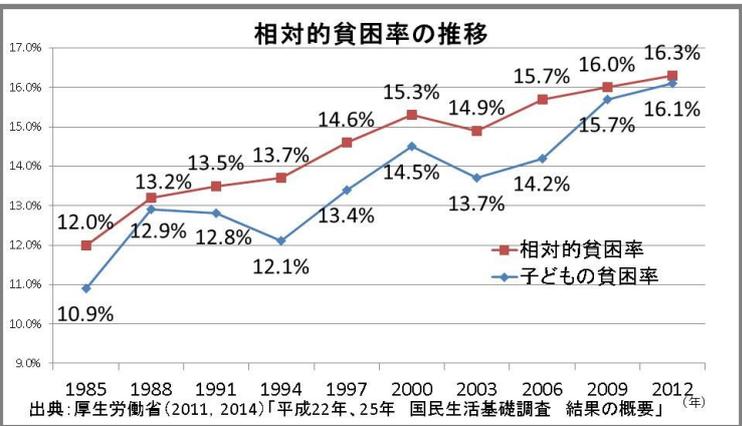
「日本の子どもの6人に1人が貧困状態です。」

そう言われても、ピンとこない方が多いかもしれません。右のグラフは2014年に厚生労働省が発表した日本の「相対的貧困率」の推移です。相対的貧困では、その社会で最も標準的な世帯所得（手取り）の半分以下で生活している状況を「貧困」と定義します（OECD）。日本の場合、年間所得122万円がそのライン。それ以下の水準で生活している子どもが16.3%も存在するのです。

「でも、貧困の子どもはこのあたりでは見かけないし・・・。」と思われるかもしれません。

現代の貧困は見えにくいと言われます。確かにそれは、戦時中のように、飢えたり、住む家がない、というような、生存を脅かす貧困（絶対的貧困）ではありません。しかし、怪我や病気をして親が自己負担分を払えず受診できない、常に給食費や修学旅行費、教材費などを滞納している、義務教育の中学は終わられても高校へは進学できない、といった状況にさらされている子どもは、周囲と比べ“不利”な自分を強く意識せざるを得ません。そのストレスが健康状態だけでなく精神面へも影響することが、いま明らかになっています。大多数が絶対的貧困を脱した現代だからこそ、相対的貧困が子どもの成長に座視できない影響を与えているのです。

貧困が“世代間で連鎖する”傾向も強まっています。親子間の学歴の連鎖は以前から言われていますが、生活保護受給世帯の世代間連鎖率の高さに見られるように、経済状況も然りです。育った環境の経済的な不利が、健康や学力、就職に否応なく影響し、成人した後も困窮する傾向が見られます。さらに家庭崩壊、DV、虐待なども相関関係があることが指摘されています。



こうした「貧困の連鎖」は、まだ先のある子どもたちから、生きていく上で大事な“夢”や“自己肯定感”までも奪いかねないのです。実際に、2011年に大阪で行われた小学5年生対象の調査では、「将来の夢がない」「思い浮かばない」「かなうのが難しいと思う」と答えた子どもの割合は、親の所得が低い層ほど高くなっています(2014年「大阪子ども調査結果概要」阿部彩 他)。

経済的に困窮する子どもほど、この辛い現実には自分の力では変えられないと感じ、無力感に苛まれる。それが今の日本社会の姿です。

社会政策的な視点も不可欠です。日本はひとり親世帯の貧困率が先進国中ワースト1、特に母子世帯の貧困率は60%を超えますが、ほとんどのひとり親は失業しているわけではありません。働いていても貧困なのです。非正規雇用の多さに起因するこの“ワーキング・プア”率の高さは、国際的にみた日本の特徴と言われています。他国に比べ、税金や社会保障など所得の再配分システムがうまく機能していないと考えられます。

子どもが貧困に立ち向かうとき、もはや個人のやる気や頑張りでどうにかなる問題ではない、ということ、大人が直視しなければなりません。

その上で、「子どもの貧困」問題を、社会全体の課題として考えていくことが必要ではないでしょうか。



今年のテーマは「育てあうまち 武蔵野」

毎年6月23日から29日までの1週間は、内閣府が定める「男女共同参画週間」。これに合わせ、全国各地で様々なイベントが催されています。武蔵野市は今年も、市民や団体でつくる実行委員会を主体に「男女共同参画フォーラム」を開催しました。それぞれのイベントを企画した実行委員からの講座報告です。

記念講演会「母娘関係から家族を見る」

■日時：6月27日（土）13：30～16：00

■会場：武蔵野プレイス 4F フォーラム

■講師：信田 さよ子さん（原宿カウンセリングセンター所長 臨床心理士 著書「母が重くてたまらない・墓守娘の嘆き」等

母娘問題は市の相談窓口にもよく持ち込まれる悩みのひとつです。「育てあうまち 武蔵野」をテーマとするフォーラムで、母と娘の関係を解きほぐす糸口を探す機会にしたいと、この問題の第一人者、信田さよ子さんにご講演いただきました。

会場の武蔵野プレイスフォーラムには130人近い参加者が早くから集まり、講演前の信田さんはカウンセリングの患者さんや旧友との交流で大忙しで、そのお人柄と人気ぶりがうかがえました。

前方から拝見すると、すでに悩みを克服したという表情の方よりは、渦中にあるという感じの方も多く、母娘問題への関心が高いことがわかりました。

講演では、母娘関係の認識が歴史的に振り返られ、90年代はアダルト・チルドレンが問題になったなあ、2008年は、信田さんの「母が重くてたまらない 墓守娘の嘆き」出版で母娘問題が幕開けし、3年ほど前からは毒母とも言われるなあ、などと振り返ることができました。

寿命は延び、結婚観は変化し、史上初めて長い長い親子関係が存在する時代となりました。母の愛が持つ支配性など美化できない面が立ち現れてきましたが、いまだ家族の常識は変わらず、母批判がタブーの日本では母から逃れることは至難の業です。

信田さんは最終的な解決策として、母親の研究を提

案されました。母はどんな人なのだろう？なぜあのような生き方しかできなかったんだろう？なぜあんなふうになってしまったんだろう？研究によって母への理解度を上げ、観察し、俯瞰して、母親の支配の外側に立つことができます。母を批判し研究することは、いわば母へのサービスです。

わかってもらいたい、あやまってもらいたい、変わってもらいたいという期待は捨てましょう！と結んで、参加者からは惜しみない拍手が送られました。

（担当：三上）



参加者の声

- ★母娘の問題を深めて、人と人のコミュニケーション、役割、加害被害、言葉とは、記憶とは何か？と、全てに通じる深い話で知的刺激がありました。
- ★母娘関係に悩む人が年代を問わないということ、会場の年齢層を見て知りました。「自分が自分として楽しく生きることが大事」ではないかと思いました。
- ★「親子は他人」との認識は関係性を楽にします。歴史的な背景、母側の老化など、楽しくわかりやすい講演でした。
- ★母と娘は永遠のテーマですね。毒母という言葉について先生ご自身からお話が聞けて、考えが整理されました。

パネルディスカッション

武蔵野市に男女平等参画条例ができれば

■日時：6月20日（土）13：30～15：30

■会場：武蔵野プレイス 1F ギャラリー

■パネリスト：岡橋 葉子さん（岡橋マーケティング研究所） 柄折 暢子さん（教育委員会委員・主任児童委員）

河合 充子さん（多摩市男女平等条例を考える会） 堀込 泰三さん（子育て主夫ネットワーク レノンパパ）

■ファシリテータ：二子石 薫さん（武蔵野市男女共同参画推進委員、むさしの男女共同参画市民協議会副会長）

武蔵野市には、まだ男女平等に関する条例がありません。もし条例ができれば、私たちの暮らしにどう味方してくれるのか、4人のパネリストの方々から、率直に語っていただいた思いは次のようなものでした。市内に多くの中小事業者がいるからこそ目に届きやすいワークライフバランスを進めたい。条例は、制定した後が重要で市民への周知がまず必要。教育分野では、子どもたち

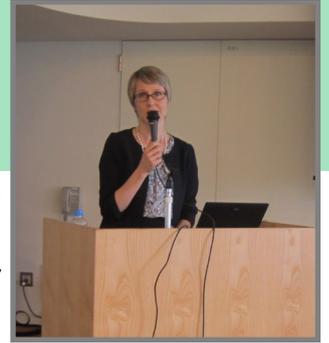
の人権意識を養うために例えば「男女混合名簿」の取り組みに期待したい。条例でしきみを整えることは大事だが、一人ひとりが意識を変革させないかぎり社会は変わらない・・・等々。

会場からも共感の声があがり、後半は活発な質疑応答。「意識を変える」ことがキーワードとなった貴重な2時間でした。（担当：向井）

トークイベント

「フィンランドに学ぶ子育てと仕事の両立のヒント」

- 日時：6月21日（日）10：30～12：30
- 会場：武蔵野プレイス 4F フォーラム
- 講師：坂根 シルックさん（東京農工大学特任准教授）
- 企画・運営：ワーキングペアレンツ



第1部は坂根シルックさんから、フィンランドの共働き事情、男女平等意識の変遷、子育て支援についてお話をいただきました。第2部はワーキングペアレンツのメンバーとシルックさんとで、日本のよりよい子育てと仕事の両立ができる社会への実現に向けてのパネルディスカッションが行われました。その後、共働き子育て世代だけでなく、親世代、そして未婚世代の方たちと、それぞれの立場でやっていきたいことを共に考えられた有意義な時間となりました。



シルックさんを交えてのグループディスカッション。

労働力人口が減少するなか、企業が多様性を受け入れ、組織変革を行っていくことと個人の自律が改めて問われている

なかで、一人ひとりがどんな行動をしたら良いのか考える有意義なイベントとなりました。（担当：小倉）

参加者の声

- ★フィンランドの社会も昨日今日創られたものではなく時間をかけてこられたと同じ、日本も少しずつでも前進していかなければと思いました。
- ★具体的にお手本となるフィンランドとの比較が聞けて、かなりの差がありますが、実践できるヒントもあり良かったです。
- ★最後の女性間の格差、女性が協力し合うという日本との違いに関する考察も面白かったです。
- ★自分を大切に、というシルックさんのメッセージが心に響きました。

講演会

「多様な性を理解する2015 ～レズビアン・性虐待サバイバーである私～」

- 日時：6月21日（日）14：00～16：00
- 会場：武蔵野プレイス 4F フォーラム
- 講師：東 小雪さん（元タカラジェンヌ、LGBTアクティビスト）



性的少数者への理解をどうやって共有するか。講師にお招きした東小雪さんはレズビアンであることを公表し、結婚式を挙げてパートナーシップの大事さを社会に訴えています。非常に語られにくい家庭内の幼時性虐待の体験も著書で明らかにしています。若い世代や当事者の参加が多く、明るくてわかりやすい話しぶりに真剣に聞き入っていました。

フォーラム実行委員会では性的少数者のシンボルであるレインボーカラーのブレスレットを作って配布し雰囲気盛り上げました。アンケートでは共感、励み、安らぎを得たというコメントが多数寄せられました。

（担当：三上）

配布されたレイ
ンボーカラーの
ブレスレットは
大人気！



参加者の声

- ★東さんのお話はわかりやすく、親しみやすく自然体で、聴講出来て光栄です。今日は参加できて自身の気持ちが少し楽になれた気がします。
- ★そもそも性教育がうまく行えてない現状ではマイノリティを理解するのは相当難しいのではないかと思います。
- ★私はLGBT当事者です。官公庁で講演するテーマとして取り上げられることが当たり前になる時代が来た、と実感しました。
- ★マイノリティの生きづらさ、性虐待の辛さ、東さんの人生は大変だと思いますがパートナーと幸せそうでステキです！自分も「バイ、レズなのでは？」と思って今日来ました。
- ★当事者でない人にも分かりやすい内容で、私は遠くから参加したのですが今日は来てよかったです。

★他人事だと思って流せず苦しい気持ちになるので、こういう話を聞くのは私にとっては勇気のいることですが、今日来て良かったです。どんどん学びたい、応援したいです！！

講演会「ケニヤの女性の現状・野生動物との暮らし」

- 日時：6月23日（火）19：00～21：00
- 会場：武蔵野プレイス3F スペースC
- 講師：中村 千秋さん（NPO法人サラマンドフの会代表）
- 企画：ラフィキ（日本獣医生命科学大学学生サークル）

撮影：中村千秋さん



「ラフィキ」とはスワヒリ語で「友達」という意味です。



ラフィキというサークルができて3年が経ち、初めて大学の周囲の方々に自分達の活動、ケニヤの女性たちの現状について知ってもらえる機会となりました。

アフリカゾウの研究者である中村千秋さんは、野生ゾウ保護と、地域の女性支援、子どもたちへの自然教育を一緒に進めています。「女性の抑圧と自然破壊には関連がある」というエコフェミニズム思想を実践しておられます。

講演後に参加者から「とても良かったわ！ありがとう！」と声をかけていただき、やりがいを感じられたと共に、これからも発信していこうという気持ちになりました。多くの方々の支えのおかげで今回の活動をやり遂げることができました。部員一同感謝の気持ちでいっぱいです。

（担当：基内）

講座「ジェンダーの視点から読む源氏物語」

- 日時：6月25日（木）10：00～12：00
- 会場：商工会議所 第一・第二合同会議室
- 講師：竹内 寿恵子さん（元高校国語科教諭）



たくさんの新しい発見があり集中した二時間でした。

定員を超える41名の方に御参加頂きました。日本文学史上の最高傑作でありながら、千年以上も前に書かれた古典の為、難解だというイメージがある『源氏物語』。もっと身近に引きつけて多くの人に読んでほしいと、一つの試みとして、社会的に作りだされた性差であるジェンダーの視点から『源氏物語』やその時代背景などについてお話をいただきました。

また、直接原文に触れることによって、その流麗な文体、日本語の美しさも味わう時間も、活発な質疑応答もありました。

7月からは連続講座がスタートしています。女君一人一人にスポットを当て、現代にも通じる女性の生き方を考えつつ「源氏物語」が読まれています。（担当：竹内）

講演 映画「イスラムをジェンダーからとらえる」 映画「少女は自転車にのって」

- 日時：6月28日（日）①上映10：00～12：10 ②講演13：00～14：30 ③上映14：45～16：25
- 会場：武蔵野プレイス 4F フォーラム
- 講師：平井 文子さん（独協大学講師）

平井文子さんの講演では、「新ヴェール現象」が核心でした。一度は着用が必須でなくなったにもかかわらず、近年全身ではなく髪だけを覆うヴェールの着用が広まっているそうです。イスラムの女性はヴェール着用をむしろ男性社会への女性の意志の表現として社会進出に利用したわけで、ヴェールを見る目が変わりました。

映画「少女は自転車にのって」は戒律が厳しいサウジアラビアが舞台です。少女ワジダが、周囲の反対を押し切り自転車を手に入れるための健気な努力を描きます。「女性が自転車に乗ると妊娠できない」と自転車に大反対だったワジダの母が、愛する夫が2人目の妻を持つ苦しみを味わって、次第に娘を応援していく姿が胸を打ちます。（担当：高坂）



(C)2012, Razor Film Produktion GmbH, High Look Group, Rotana Studios

参加者の声

サウジアラビアは遠い国という感じだったのですが、映画は興味深かったです。厳しい戒律のもとでも女性たちは、おしゃれを楽しみ又様々な外国文化が流入している様子がうかがえました。

新ヴェール現象についてのお話がわかりやすく、疑問も解いていただきました。

「心をひらくわらべうたの世界

～子どももおとなも 一緒にうたってあそんでわらって ワクワク・ドキドキ～

- 日時：6月27日（土）10：30～12：00
- 会場：市民会館 集会室
- 講師：高橋京子（音楽家・コダーイ芸術教育研究所）
- 企画：まめっちょ



小さい子にするあそびせあそびから大きい子のあそびまで沢山のわらべうたであそびました。子どもも大人も唄を集中して聴いていました。

あそびでは、大人も参加してダイナミックなわらべうたで盛り上がりました。わらべうたあそびは共感、感情と時間の共有、つながること、そして子どもの自尊感情を高めるとのお話でした。（担当：牽岸）

「ここはとうちゃんにんどころ（似ているところ）…」と唱えながら我が子の顔を触ったおとうさんやおかあさんが、唱え言葉に「あなたという存在には父母、祖父母、曾祖父母…、たくさんの方がつながっている、そしてあなたは皆に愛されている」という想いが込められていると実感した様子が印象的でした。大きい子の



時間いっぱい遊びました！



親子の表現遊び 「こどものおと」

- 日時：6月28日（日）10：15～11：15
- 会場：市民会館 集会室
- 講師：林 長子さん（元ピアノ講師）、吉田 孝子さん（元幼稚園教諭）、小澤 園子さん（同）
- 企画：境おやこひろば



親子遊びの「こどものおと」には、30組の親子が参加くださいました。遊びのテーマは、晴れた休日にふさわしく「お弁当を持って電車で山へ行こう！」。まずは、画用紙をくしゃくしゃに丸めたりちぎったりして「お弁当」を作ります。白い紙はおにぎりに、赤はトマトや鮭にと、できたお弁当は本当においしそう。そして、みんなで輪になって電車ごっこ



をしました。リトミックや絵本、歌などもあり、盛りだくさんの1時間。先生方のアイデアが詰まった内容に、「家ではできないことを一緒に遊べてとても楽しかったです。子どももイキイキしていました」などの感想をいただきました。お父さんの参加も多く、積極的に楽しんでくださる姿が印象的でした。

（担当：小西）



パネル展示

- 武蔵野プレイス ギャラリー 6月20日(土)～29日(月)
- 市役所ロビー 6月30日(火)～7月6日(月)

男性も関心をもって熱心に見てくれました。



男女共同参画の視点でのパネル展示が行われました。武蔵野市内外で活躍する11団体、介護保険むさしの市民の会、シルバースプーン、日本女子大学教育文化振興桜楓会武蔵野支部、日本パシイワ（日本汎太平洋東南アジア婦人協会）、ひまわりもコスモスも、まなこOG会、武蔵野ブラショフ女性問題研究会、むさしの男女共同参画

市民協議会、無二の会、Musashino International Club (MIC)にご参加いただきました。

「多様な団体が男女共同参画の視点で活動していることを知り頼もしく感じました」との感想が寄せられました。

（担当：大島）

フォーラムを終えて

皆様の力を集めて今年のフォーラムを遂行できました。実行委員の方々の夜昼なしの努力は特筆すべきものでした。ヒューマン・ネットワークセンタースタッフの油断のない仕事ぶりに支えて頂かなくは進むことはできませんでした。各部署への連絡、アピールなど、市の担当にはあらゆる場面で活躍頂きました。パネル展示の諸団体、公募企画の日獣大サークルのご協力もありがとうございます



ございました。企画公募、パネリストを他市民から招いたこと、子育て団体の参加を得たこと、市内カフェでの委託販売など、新しい出会いが広がる可能性のあるフォーラムだったと思います。今後の武蔵野市の男女共同参画に生かしていきたいと思います。皆様、お疲れさまでした。

武蔵野市男女共同参画フォーラム2015実行委員長

三上かおり



■ 新型「出生前診断」について知り、その課題について考える。

- 日時：平成27年3月14日（土）10：00～12：00
- 会場：武蔵野市民会館 講座室
- 講師：二階堂 祐子さん（「ハイリスク」な女の声をとどける会発起人）

当講座は2013年4月から日本でも始まり、折にふれて報道されてきた「新型出生前診断」について、正しい知識を得ることを目的として開催されました。各種の出生前診断についての解説と、「ハイリスク」とされる35才以上の女性の妊娠・出産の状況とそこに感じる様々な不安等についてデータに基づき丁寧にお話しいただきました。そしてその不安は、必ずしも医学的・生物学的な要因によるものばかりではなく、その人の生きている状況からくる心理・社会的なものも多いとお話していただきました。

また、講師ご自身も体験された遺伝カウンセリン

グについて「必要だが、今の体制では不十分なのでは？」という問題提起がありました。講義終了後、多くの質問に対して熱心な応答をいただき、「ためになった」という感想が多く寄せられ、大変有意義な講座となりました。



新型出生前診断（NIPT）について多少の知識もありましたが、より詳しくさらにそれを取り巻く様々な状況について知ることができて本当によかったです。

参加者の声

やはり、父になる男性も同じ土俵に立ち、考えていく必要があります。

親として働く女性として、妻として今後の出産計画を考える上でよい機会となりました。

自分自身が今検査を受けるかどうか迷っているので良いタイミングで勉強させていただきました。

■ “貧困女子”時代のマネー管理術

～老後一人でも幸せに生きていけますか～

- 日時：平成27年5月16日（土）14：00～16：00
- 会場：武蔵野プレイス 3F スペースC
- 講師：花輪 陽子さん（ファイナンシャル・プランナー）

定員を上回る20代から60代以上まで幅広い年代の多くの方々に参加いただきました。

単身女性の3人に1人、シングルマザーや1人親世帯、65歳以上の半数が貧困状態といわれる現代。勤務先の倒産やリストラ、介護、離婚などで収入の道をたたれるのは女性の方が多く、誰もが貧困と無縁ではない。そのような現状からお話はスタートしました。老後まで安心して暮らすために必要な貯蓄額、子供の教育費、ひとり親家庭への公的援助や遺族年金などについて確認をし、「未来の家計の見通し」のシュミレーションでは1人1人が熱心に取り組みました。お金を貯めるには、まずは自分の生活における収支の把握、そしてライフプランに基づいて早くから老後の準備をすることが大事。千里の道も一歩から、先ずは自分の支出を把握すること、貯蓄用の口座を開設するなどすぐにできることから取り組んでいくことの大切さをあらためて学びました。



落ち着いた語り口で基本からしっかり教えて頂きました。



年齢関係なく多くの方から二回目開催のお声を頂くほど大盛況。

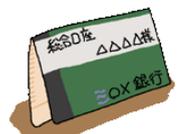
大きな目標は小さく分解してという言葉が印象的でした。

行動することが大切、貯蓄の専用口座を早速開設します！

参加者の声

社会制度などを自ら学んでいく必要性を感じました。未来家計簿の作り方が学べました。

老後までいくら必要でそのために何をすべきか考えるよい機会になりました。



ひゅーまんシネマ★

マダム・イン・ニューヨーク

■平成27年5月21日（木）13:00~16:00
■武蔵野プレイス フォーラムA

映画『マダム・イン・ニューヨーク』上映会&カフェトーク、好評につき2回目の開催です。プレイス4Fのフォーラムいっぱいの方が集まってくださいました。

上映後のカフェトークは、インドのお茶“チャイ”を楽しみながらのリラックスタイム。いろいろな世代の女性同士、映画の内容や女性の生き方についておしゃべりに花が咲きました。



成蹊大学で昨年度に引き続きデートDV講座を行いました

■日時：平成27年6月22日（月）16:40~18:10
■会場：成蹊大学三号館 102教室
■講師：西山 さつきさん（NPO法人レジリエンス 副代表）



交際中のカップル間でおきる暴力をデートDVといいます。親密な男女間のDVIは「結婚しているわけじゃないんだから、別れたら」とあまり問題視されません。しかし、DV防止法が適用されないこと、専門の相談機関が少ない、発達段階における脳や身体にあたる影響が大きい、進路の選択に影響する、などデートDVは多くの問題を抱えています。また、DVはとても身近な問題です。自分自身が経験するかもしれない、友人が経験するかもしれない、家の中で起きているかもしれない、つまり他人事だと思わないことが大事です。授業ではDVは相手をパワーでコントロールし、そして様々な暴力を振るい相手を支配していく道筋が説明されました。この状況から抜け出すことは容易ではなく、身近な人の理解や支援、専門家が関わることの重要性が理解できました。

参加者の感想にも「DVは特別なことではなく、身近に起きることが分かった。」「大勢の前でやってはいけないことは、カップルの間でもしてはいけない、という当たり前のことを忘れないようにしたい。」等の声が寄せられました。成蹊大学で昨年に引き続きデートDV出前講座を行えたことで、聞いてもらいたい若い人に必要な情報や学びを届けられました。人権意識は学ぶことと、経験することにより浸透します。大学や担当の先生のご協力で授業の一環として取り組めた今回の試みを、今後はより若い高校生や中学生に広げていきたいと思ひます。



活発な質疑応答がありました。

怒りと上手に付き合う方法

■日時：平成27年7月5日（日）13:00~15:00
■会場：武蔵野市民会館 講座室
■講師：高田 しのぶさん
（一般社団法人日本アンガーマネジメント協会 公認ファシリテーター、オフィス悠々代表）



定員を50%上回る申込みがあった講座。受付後早々に締め切らざるを得ず、託児10名（抽選）も激戦となり、すべての方のご希望に沿えなかったことが残念でした。

高田先生の教える“アンガーマネジメント”は、怒らないことではなく、怒りをコントロールするスキルです。怒りの本質を捉え直し、対処療法⇒体質改善と進む一連の方法は「目からうろこ」の連続でした。特に、怒りは単なる生理的反応ではなく二次感情であり、その前に一次感情や個々の“べき”（価値観）がある、というところには、ハッとさせられた方が多数。そして、自分の一次感情に気づくことで、周囲の人の一次感情にも気づくことができる、そのことで“怒り”をまともに受けなくて済むようにもな

る、という先生の言葉が非常に印象的でした。

6人一組で行った数回のワークも、参加者の皆さんの驚くべき集中力と熱心さで盛り上がり、会場には珍しいほどの一体感が生まれました。最後のQ&Aまで充実した内容でした。

講義&ワークの二時間はあっという間に、初めて会う者同士でもお互い話して聞いて、納得！



参加者の声

★~するべきという自分の価値観を相手に押し付けすぎないようにしようと思いました（40代、女性）

★異年齢の子どもを育てている親が集まっていたのがよかった（50代）。
★場の一体感がハンパなかった（30代）。

★一次感情に冷静に気付くことができるよう、心がけていきたい。掘り下げることによって原因や対処法が見つかるような気がする。（30代）

これからの
講座予定



詳細は今後の市報または
センターHPをご覧ください！

■平成27年11月7日（土）午後
講座：「人生100年時代の自分航海術」（仮）
講師：樋口恵子さん（評論家）

人生100年も夢でなくなってきた現代。家族のあり方やとりまく環境が急激に変わってきた中で、これからの人生をより気持ちよく元気に生きていくためには自分自身がどうあるべきか考えてみる講座です。

■平成27年11月15日（日）午後
講座：「支配のトンネルを抜けるために
～”モラハラ”について知る」（仮）
講師：本田りえさん（臨床心理士）

外から見えにくい家庭内のモラルハラスメント。その本質は支配と服従の関係です。家庭といういわば安全地帯の中で日常的に行なわれる”心への暴力”に、いつか自分を破壊されてしまう前に。支配に悩む人を支援する講座です。

他にもまだまだたくさんの講座を予定しています。
これからの市報やセンターHPをご覧ください。

ご利用ください
センターの本

仕事や生き方、子育てに介護、家族、ジェンダー、人権まで、男女共同参画関連の視点で集めた1600冊以上の本が揃っています。図書館にはない希少本や、もちろん人気の新刊も。簡単な登録でどなたでもご利用できます。



NEW! ホームページの蔵書検索機能が充実しました。書名、著者名、キーワードで検索ができます。



「むさしの男女共同参画市民協議会」
平成27年度運営委員決まる！

5月9日（土）10:30から市議会議長、市議会議員他をむかえて行われた総会では、前年度の事業報告や27年度に向け新運営委員の選出がなされ、承認されました。むさしの男女共同参画市民協議会は、引き続き、事業の一部委託を受け、市と共に男女共同参画推進を担っていきます。

平成27年度 運営委員

- 会長 向井 一江
- 副会長 二子石 薫 大島 登志子（書記兼任）
- 大久保 力 木下 章子 栗原 毅 桑田 知子 砂川 直美
- 高坂 祐里子 竹内 寿恵子 内藤 博子 原 利子 三上 かおり（50音順）

秘密
厳守

悩みごと相談

無料

-ひとりで悩まずに、まずは相談を-

- 女性総合相談…50分まで面談または電話・予約制
第2木曜日（10:00～、11:00～）
第4火曜日（13:00～、14:00～、15:00～）
- ★場所・問い合わせ
市民活動推進課市民相談係（市役所西棟7階）
☎60-1829 ☎60-1921（予約専用）
- ひとり親家庭・女性相談
月～金曜日（9:00～17:00 祝日・年末年始を除く）
- ★場所・問い合わせ
子ども家庭支援センター ☎60-1850

● センター利用案内 ●

開館時間：月～土曜日 9:30～17:00
休館日：日曜日・祝日、年末年始
会議室利用時間：《午前》10:00～13:00
《午後》13:30～16:30

- 予約制（2か月前より可）、利用料無料、事前登録制●
- フリースペースはどなたでもご利用頂けます●

● 発行 ●

むさしのヒューマン・ネットワークセンター
武蔵野市境 2-10-27 武蔵境市政センター2階
電話/FAX：0422-37-3410
E-mail：mhnc@tokyo.email.ne.jp
ホームページアドレス
http://www.mhnc.jp/

ホームページが
見やすくなりま
した。最新情報
是非チェック
してみてください
いね！

ご存知ですか。『まなこ』

武蔵野市の男女共同参画の冊子です。No94が8月に発行されています。今回のテーマは「男の地域デビュー」。当センターはじめ市役所、市政センター、図書館、コミセン、駅等市内の約450か所に置かれますので是非手に取ってご覧ください。